

The 30th Meeting of the Japanese Society of Psychosomatic Dentistry



第30回

日本歯科心身医学会 設立30周年記念総会・学術大会

From Brain to Dentistry
— 中枢から見た歯科医学

会期 ● 2015年 7月18日(土)・19日(日)

会場 ● 東京医科歯科大学
M&Dタワー 鈴木章夫記念講堂

大会長 ● 豊福 明

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野



The 30th Meeting of
the Japanese Society of
Psychosomatic Dentistry

第30回

日本歯科心身医学会 設立30周年記念総会・学術大会

From Brain to Dentistry

— 中枢から見た歯科医学

会 期 ● 2015年 7月18日(土)・19日(日)

会 場 ● 東京医科歯科大学
M&Dタワー 鈴木章夫記念講堂

大会長 ● 豊福 明
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野

第30回日本歯科心身医学会総会・学術大会事務局

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野

実行委員長 吉川 達也

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

TEL: 03-5803-5898/5909 FAX: 03-5803-5898

E-mail: sikasinsin30@gmail.com

大会長あいさつ

大会長 豊福 明

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野

第30回日本歯科心身医学会総会・学術大会を東京医科歯科大学で開催させて頂くことになりました。大変光栄なことで、本会員の皆様に感謝申し上げます。期日は平成27年7月18、19日、会場は東京医科歯科大学 M&D タワー鈴木章夫記念講堂他で開催させて頂きます。

本学では平成3年に第6回大会を歯科麻酔学教室の久保田康耶先生が、平成8年に第11回大会を歯科補綴学教室第1講座の藍 稔先生が開催されて以来の担当となります。

個人的には平成2年に2代目理事長の都 温彦先生のもとで開催された第5回大会をお手伝いさせて頂いた25年来の担当で思い入れの大きい記念大会です。

本大会のテーマは「中枢から見た歯科医学」と致しました。歯科心身症とは定義の難しい疾患ですが、現実には多彩な口腔症状に苦しんでおられる患者さんは大勢いらっしゃいます。その事実から設立された本学会の原点に回帰し、空虚な言葉遊びから脱却し、科学のない(brainless)議論も心のない(mindless)議論も排して、今、困っておられる患者さんを救済するために歯科医師は何をすべきかを考え直す機会にしたいと考えています。

本大会では、この難しい疾患・病態をどう見立てれば良いのか、どう治せば良いのか、という現場の悩みに答えるべく、「歯学研究に脳科学を導入するために」と、「心も診れる歯科医師になるには」という2つのサブテーマから企画を練ってみました。もちろん臨床の現実から乖離しないように最適な演者に実践的な内容を御願い致しました。

教育講演には、本学歯学部歯学科長でかつ、御高名な認知神経科学者として御活躍中の泰羅雅登教授に、歯科医師として脳の研究に携わることの醍醐味をお話し頂く予定です。若い先生方にもリサーチマインドが刺激されるエピソードが伺えるものと思います。

さらに本学ご出身で長らく国立精神神経センター武蔵病院歯科医長を務められた中村廣一先生に「歯科心身医学とクオリア」というタイトルで、精神疾患患者さんとの対話から生まれた歯科心身医学の新しい切り口を提示して頂きます。

さらに特別講演には、抗精神病薬の身体的副作用など内科からみた精神医療に造詣の深い長嶺敬彦先生をお招きし、「部分と全体—歯科心身医学研究への提言」のご講演をお願いしています。現場での緻密な観察から生まれた自由な発想をもとに、これからの歯科心身医学研究への新しい扉を開いて頂けるものと期待しています。

2日目の特別企画1は、前回に引き続き審美・インプラントのエキスパートから心身医学的問題への対処を伺う「本当の難症例とは何か」を設定しました。山崎長郎先生、小宮山彌太郎先生、中村社綱先生という錚々たる演者を御招きし、達人の嗅覚と返し技をより一般化し共有化できるように挑戦したいと思います。

さらに特別企画2では、耳鼻咽喉科から五島史行先生、整形外科から谷川浩隆先生、産婦人科から寺内公一先生という新進気鋭の外科系の先生方をお招きし、外科系の心身医学の実践から、あるべき姿の歯科心身医療を考える「外科系各科の心身医療に学ぶ」という企画に致しました。各科の先生方の取り組みから我々歯科医師が得られるものは多いと確信しています。

もちろん大好評のPIPCセミナーも招聘しています。3年目となる今回は30回記念大会スペシャルをお願いしています。この研修会は会員外の方でも受け付けていますので奮ってご参加下さい。

かねてから希望の多かった若手の会も準備しました。いつも苦勞する症例の話、保険診療の問題、研修や勉強の仕方など日常臨床で困っているいろいろな疑問や悩みを共有し、忌憚のない議論ができる場として発展していくことを願っています。

多くの先生方のご参加をいただき、新しい時代の歯科心身医学を牽引するための記念大会にしたいと考えています。東京医科歯科大学大学院歯科心身医学分野スタッフ一同、会員・非会員を問わず多数のご参加をお待ちするとともに、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

日本歯科心身医学会担当校

回	開催日	開催地	大会長	所属
第1回	昭和61年7月12日(土)	東京	内田 安信	東京医科大学口腔外科学教室
第2回	昭和62年7月10日(金)、11日(土)	東京	久野 吉雄	日本歯科大学歯学部口腔外科学講座
第3回	昭和63年7月1日(金)、2日(土)	東京	杉浦 正己	日本大学歯学部口腔診断科
第4回	平成元年7月13日(木)、14日(金)	横浜	瀬戸 皖一	鶴見大学歯学部第1口腔外科学教室
第5回	平成2年7月13日(金)、14日(土)	福岡	都 温彦	福岡大学歯学部歯科口腔外科学教室
第6回	平成3年7月11日(木)、12日(金)	東京	久保田康耶	東京医科歯科大学歯学部歯科麻酔学教室
第7回	平成4年7月11日(土)、12日(日)	名古屋	黒須 一夫	愛知学院大学歯学部小児歯科学教室
第8回	平成5年8月26日(木)、27日(金)、28日(土)	盛岡	石川富士郎	岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座
第9回	平成6年7月18日(月)、19日(火)、20日(水)	東京	小林 雅文	日本大学歯学部薬理学教室
第10回	平成7年7月27日(木)、28日(金)	名古屋	深谷 昌彦	愛知学院大学歯学部口腔外科学第1講座
第11回	平成8年7月25日(木)、26日(金)	東京	藍 稔	東京医科歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座
第12回	平成9年7月25日(金)、26日(土)	新潟	下岡 正八	日本歯科大学新潟歯学部小児歯科学教室
第13回	平成10年7月17日(金)、18日(土)	盛岡	石橋 寛二	岩手医科大学歯学部歯科補綴学第2講座
第14回	平成11年7月17日(土)、18日(日)	大阪	川本 達雄	大阪歯科大学歯科矯正学教室
第15回	平成12年7月14日(金)、15日(土)	福岡	亀山 忠光	久留米大学医学部口腔外科学講座
第16回	平成13年7月7日(土)、8日(日)	東京	工藤 逸郎	日本大学総合科学研究所
第17回	平成14年7月5日(金)、6日(土)	東京	扇内 秀樹	東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学教室
第18回	平成15年6月28日(土)、29日(日)	東京	小林 義典	日本歯科大学歯科補綴学第1講座
第19回	平成16年7月17日(土)、18日(日)	東京	永井 哲夫	慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教室
第20回	平成17年7月16日(土)、17日(日)	名古屋	土屋 友幸	愛知学院大学歯学部小児歯科学講座
第21回	平成18年7月15日(土)、16日(日)	北九州	横田 誠	九州歯科大学歯周病制御再建学分野
第22回	平成19年3月17日(土)、18日(日)	東京	田邊 晴康	東京慈恵会医科大学歯科学教室
第23回	平成20年7月19日(土)、20日(日)	東京	山根 源之	東京歯科大学歯学部 オーラルメディスン・口腔外科学講座
第24回	平成21年6月6日(土)、7日(日)	東京	小池 一喜	日本大学歯学部口腔診断学講座
第25回	平成22年7月17日(土)、18日(日)	広島	香西 克之	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔頸部医科学講座小児歯科学
第26回	平成23年7月16日(土)、17日(日)	札幌	安彦 善裕	北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系 高齢者・有病者歯科学分野
第27回	平成24年9月1日(土)、2日(日)	川越	藤澤 政紀	明海大学歯学部機能保存回復学講座 歯科補綴学分野
第28回	平成25年7月13日(土)、14日(日)	福岡	楠川 仁悟	久留米大学医学部 歯科口腔医療センター
第29回	平成26年7月26日(土)、27日(日)	神奈川	玉置 勝司	神奈川歯科大学顎咬合機能回復補綴医学講座
第30回	平成27年7月18日(土)、19日(日)	東京	豊福 明	東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野

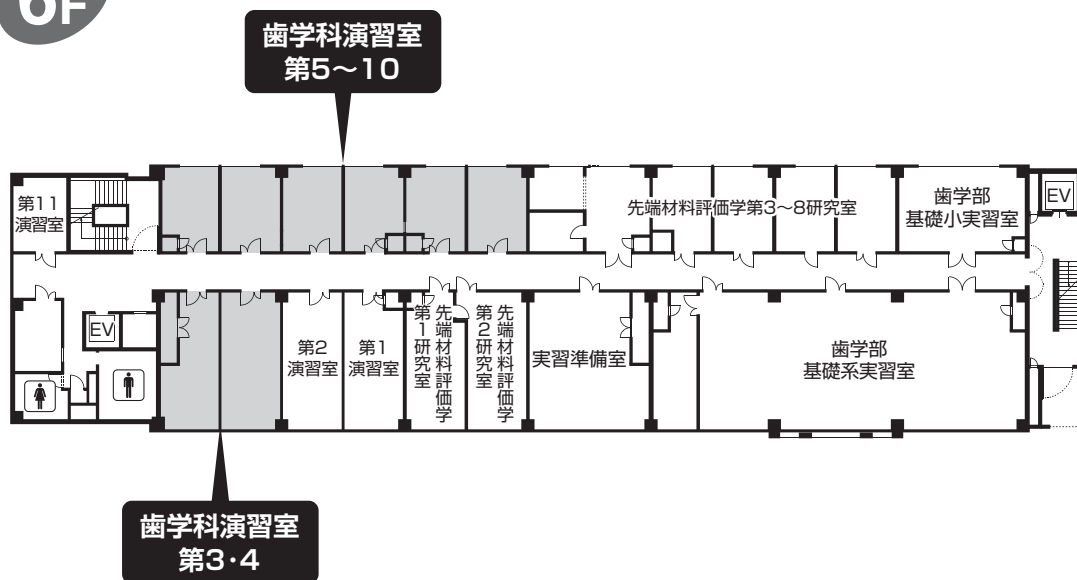
会場アクセス図



会場案内図

1号館 西

6F



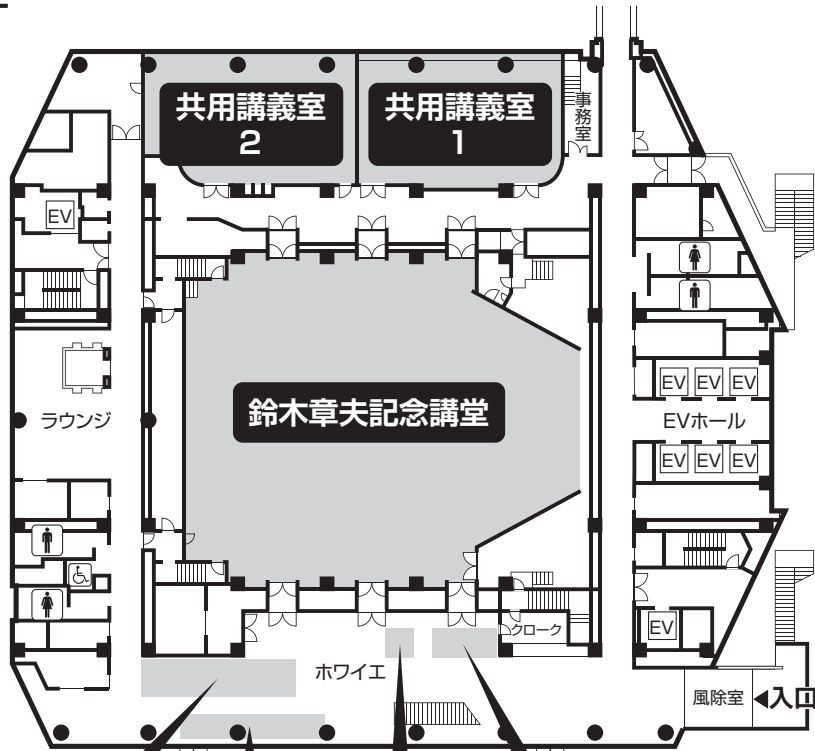
1号館 東

7F



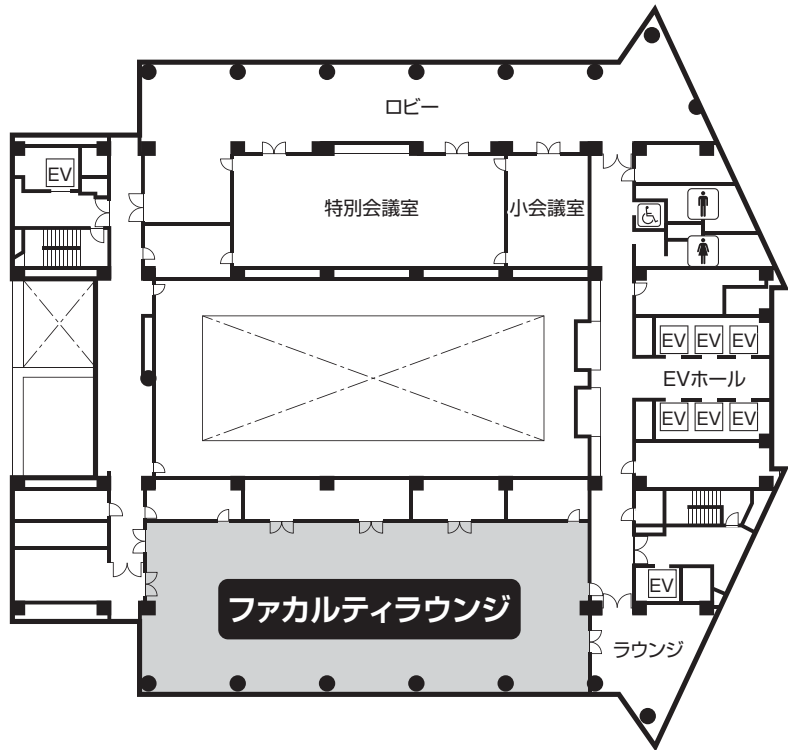
M&D タワー

2F



ポスター発表会場 企業展示 スライド受付 総合受付

26F



日 程 表

1日目 7月17日 **金**

歯学部会議室 (1号館東7F)

歯学科演習室 (1号館西6F)

9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		13:00～14:00 認定医試験
14:00		14:00～16:00 各種委員会
15:00		
16:00	16:00～17:00 理事会	
17:00		

2日目 7月18日(土)

鈴木章夫記念講堂 (M&Dタワー2F)		共用講義室 1 (M&Dタワー 2F)
9:00	8:58 ~ 9:00 開会の辞	
	9:00 ~ 9:40 一般演題 1 (臨床 1) 座長: 松岡 紘史 北海道医療大学	
10:00	9:40 ~ 10:20 一般演題 2 (臨床 2) 座長: 古賀 千尋 福岡歯科大学	
11:00	10:30 ~ 11:10 一般演題 3 (臨床 3) 座長: 山崎 裕 北海道大学	
	11:10 ~ 11:40 一般演題 4 (基礎 1) 座長: 小池 一喜 日本大学	
12:00		12:00 ~ 12:30 評議委員会
13:00	12:30 ~ 13:00 ポスター質疑応答	
	13:00 ~ 13:30 一般演題 5 (基礎 2) 座長: 安彦 善裕 北海道医療大学	
14:00	13:30 ~ 14:30 教育講演 1 クオリアとしての自覚症状から見えるもの — 歯科心身症再考 — 中村 広一 元国立精神・神経センター武蔵病院 歯科医長 座長: 豊福 明 東京医科歯科大学	
15:00	14:40 ~ 15:40 特別講演 部分と全体; 歯科心身医学研究への提言 長嶺 敬彦 いしい記念病院内科 座長: 安田 弘之 やすだクリニック	
16:00	15:50 ~ 16:50 教育講演 2 歯科と認知神経科学 泰羅 雅登 東京医科歯科大学 認知神経生物学分野 座長: 藤澤 政紀 明海大学	
17:00	17:00 ~ 19:00 懇親会	
19:00	19:00 ~ 歯科心身若手の会 参加資格: 若手大会参加者 事前登録制	

3日目 7月19日

	鈴木章夫記念講堂 (M&Dタワー2F)	共用講義室 2 (M&Dタワー 2F)	ファカルティラウンジ (M&Dタワー 26F)
9:00	<p>9:00～11:00 特別企画 1 インプラント・審美領域の不定愁訴への対応 基調講演 咬合に関する難症例とは? 山崎 長郎 原宿デンタルオフィス</p> <p>シンポジウム 本当の難症例とはなにか ～達人の嗅覚と返し技～</p> 小宮山 彌太郎 フローネマルク・オッセオ インテグレイション・センター 中村 社綱 インプラントセンター・九州 豊福 明 東京医科歯科大学歯科心身医学分野		
10:00		座長：立川 敬子 東京医科歯科大学 宗像 源博 神奈川歯科大学	
11:00			
		11:00～11:30 総会	
12:00	<p>11:30～13:30 特別企画 2 外科系各科の心身医療に学ぶ シンポジウム “こころ”も診れる歯科医療を目指して</p> 谷川 浩隆 谷川整形外科クリニック 寺内 公一 東京医科歯科大学女性健康医学講座 五島 史行 国立病院機構東京医療センター耳鼻咽喉科 座長：高向 和宜 たかむきメンタルクリニック 北川 善政 北海道大学		
13:00			
13:30			
	13:30～ 閉会の辞		
14:00			14:00～15:00 学会研修会 1 あなたのプレゼンはなぜ眠いか?
15:00		木村 勝智 みよし市民病院・第二内科部長・健診科部長	
16:00			15:00～18:00 学会研修会 2 歯科医師のための PIPC 入門 ファシリテーター 井出 広幸 信愛クリニック 宮崎 仁 宮崎医院 木村 勝智 みよし市民病院・第二内科部長・健診科部長 スーパーバイザー 高向 和宜 たかむきメンタルクリニック 金光 芳郎 福岡歯科大学
17:00			
18:00			

ポスタープログラム

平成27年7月18日(土)
鈴木章夫記念講堂(M&D タワー2F)

12:30~13:00 一般演題(ポスター)

P-1 咬合異常感を伴う非定型歯痛にプレガバリンが奏効した1例

○加藤 雄一¹⁾²⁾、岡田 智雄²⁾、石井 隆資²⁾、荻部 洋行¹⁾

1)日本歯科大学 生命歯学部 小児歯科学講座、2)日本歯科大学附属病院 心療歯科診療センター

P-2 neurovascular compression を有し、三叉神経痛様症状を伴う非定型顔面痛に対し amitriptyline の投与が著効した1例

○久良木 建、三浦 杏奈、篠原 優貴子、北村 智久、美久月 瑠宇、岩脇 清一、梅崎 陽二郎、渡邊 素子、吉川 達也、豊福 明

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野

P-3 入院治療を要した非定型歯痛の1例

○美久月 瑠宇、梅崎 陽二郎、三浦 杏奈、篠原 優貴子、渡邊 素子、久良木 建、岩脇 清一、北村 智久、吉川 達也、豊福 明

東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野

P-4 入院治療が奏効した舌痛症の1例

○渡邊 素子¹⁾、三浦 杏奈²⁾、篠原 優貴子²⁾、美久月 瑠宇²⁾、北村 智久²⁾、岩脇 清一²⁾、久良木 建¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、吉川 達也²⁾、豊福 明²⁾

1)東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来、

2)東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野

P-5 口腔領域の心理ストレス関連疾患に対する治療手段とその効果について

○河野 晴奈¹⁾²⁾、篠崎 貴弘¹⁾²⁾、原 和彦¹⁾²⁾、見崎 徹²⁾、小池 一喜¹⁾²⁾

1)日本大学歯学部口腔診断学講座、2)日本大学歯学部付属歯科病院心療歯科

P-6 非定型歯痛患者への Amitriptyline の反応性について

○三浦 杏奈¹⁾、美久月 瑠宇¹⁾、北村 智久¹⁾、岩脇 清一¹⁾、篠原 優貴子¹⁾、渡邊 素子²⁾、梅崎 陽二郎²⁾、久良木 建¹⁾、吉川 達也¹⁾、豊福 明¹⁾

1)東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 歯科心身医学分野、

2)東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来

P-7 歯科矯正治療と関連した歯科心身症患者の特徴

○舌野 知佐¹⁾、三浦 杏奈²⁾、美久月 瑠宇²⁾、篠原 優貴子²⁾、梅崎 陽二郎²⁾、北村 智久²⁾、久良木 建²⁾、渡邊 素子²⁾、吉川 達也²⁾、豊福 明²⁾

1)東京医科歯科大学大学院 咬合機能矯正学分野、2)東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野

P-8 当科外来における口腔内セネストパチーの臨床統計的検討

○梅崎 陽二郎¹⁾、三浦 杏奈²⁾、篠原 優貴子²⁾、美久月 瑠宇²⁾、北村 智久²⁾、
渡邊 素子¹⁾、久良木 建¹⁾、岩脇 清一²⁾、吉川 達也²⁾、豊福 明²⁾

1) 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科心身医療外来、

2) 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 歯科心身医学分野

P-9 当科における舌痛症の臨床的統計

○北村 智久、美久月 瑠宇、岩脇 清一、篠原 優貴子、三浦 杏奈、渡邊 素子、
梅崎 陽二郎、久良木 建、吉川 達也、豊福 明

東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 歯科心身医学分野

特別講演

教育講演

特別企画

学会研修会

部分と全体；歯科心身医学研究への提言

A Part and The Whole ; A Proposal to Psychosomatic Dentistry Research

長嶺 敬彦

新生会 いしい記念病院内科

私どもは、専門性もなく、なおかつ「歯科心身医学」に素人の医師です。しかし歯科心身医学研究にヒントを与えることができればと思い、無知を承知でお話をしてみたいと思います。

タイトルの「部分と全体」というのは、不確定性原理で有名な物理学者ハイゼンベルクの自叙伝のタイトル「Der Teil Und Das Ganze」からとったものです。部分の総和が全体でないことはよくあります。ですから、身体の一部分である歯の治療を完璧に行っても解決できない問題があるのです。そもそも有能な歯科医が歯の治療の枠、すなわち「歯の修理モデル」を超えて、脳機能(mind)に言及したのが本学会ではないかと思います。

さて、歯科心身医学研究では「ギャップ」が一つのキーワードになると思います。何と何のギャップかといえば、口腔病変という客観的な部分の病理と患者が感じる主観的な認知のギャップです。知覚を含めた認知機能が、局所である口腔の病態生理と関連しない現象を解明することです。そこで本日は私どもが研究対象にしてきた脳内のドーパミン神経系を中心に、ヒトの認知機能や精神機能についてお話してみたいと思います。ドーパミン神経系の原始的な役割、神経細胞の数と発生、回路の重要性、腸内細菌叢と脳機能、脳の特徴である並列分散処理、モラルの回路、サルルの思いやり、などをお話しいたします。

一般演題

(口演)

1-1 口腔異常感症の漢方治療における後ろ向き研究

Retrospective study of efficacy of Kampo medicine for treatment of oral dysesthesia

小澤 夏生¹⁾²⁾、藤田 康平²⁾、佐藤 英和²⁾、加藤 伸²⁾、角田 和之²⁾、角田 博之²⁾、
○永井 哲夫²⁾

1)小澤歯科醫院、2)慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室

Natsuo Ozawa¹⁾²⁾, Kohei Fujita²⁾, Hidekazu Satou²⁾, Shin Katou²⁾, Kazuyuki Tunoda²⁾,
Hiroyuki Tunoda²⁾, ○Tetsuo Nagai²⁾

1) Ozawa Dental Clinic

2) Department of Dentistry and Oral Surgery, School of Medicine Keio University

【緒言】「心理情動因子に起因し口腔内に異常感を訴えるにもかかわらず、その症状に見合うだけの器質的变化の認められない症例」を口腔異常感症と診断する。我々は、本学会において、口腔異常感症の治療に東洋医学的手法を用い、その有用性を報告してきた。西洋薬を併用したものを除いて漢方薬及び意療で対応して有用性が認められたものは12症例であった。今回はそれらを後ろ向き研究し報告する。

【症例】対象は2004年から2014年の本学会において報告した症例で内訳は男性1例、女性11例。年齢は27歳から74歳で平均は55.75歳であった。12症例のほとんどは口腔領域に多岐にわたる訴えを持っていたが、主訴として、舌痛8症例、口腔乾燥感1例、口臭1例、味覚異常1例、顎関節周囲の痛みが1例であった。症例は、西洋医学的に口腔異常感症と診断された。これらの症例を東洋医学的に鬱証と捉え、それを、虚実に分けさらに臨床的にそれぞれを3型に分け、合計6型とし、漢方薬を処方する際のガイドとした。12症例はそれぞれ気滞痰鬱、肝気鬱結、血虚鬱証、痰気鬱結、気虚鬱証、陰虚鬱証などであった。また、東洋医学において「心理療法」にあたる「意療」のみで功を奏したものは4例であった。「意療」には、幾つかの種類があるが、その中で鬱証に対しての「移情易性」の有効性を確認した。

【考察】本学会に11年間で発表した症例に後ろ向き研究を行った。これら全ての症例は、西洋医学的立場と東洋医学的立場を考慮し、行われた。治療、経過、結果において、東西の医学の観点から「口腔異常感症」を「鬱証」と捉えることは、矛盾の無いものであった。日本の文化遺産である伝統医学は古来より心身一如の立場を取っており、これを歯科心身医学に取り入れることは、有意義なものとする。今後さらに症例を重ねたい。

キーワード：口腔異常感症、鬱証、後ろ向き研究

一般演題

(ポスター)

P-1 咬合異常感を伴う非定型歯痛にプレガバリンが奏効した1例

Effectiveness of pregabalin for treating atypical odontalgia with phantom bite : a case report

○加藤 雄一¹⁾²⁾、岡田 智雄²⁾、石井 隆資²⁾、苅部 洋行¹⁾

1) 日本歯科大学 生命歯学部 小児歯科学講座、2) 日本歯科大学附属病院 心療歯科診療センター

○Yuichi Kato¹⁾²⁾, Tomoo Okada²⁾, Takashi Ishii²⁾, Hiroyuki Karibe¹⁾

1) Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental University

2) Clinical Center of Psychosomatic Dentistry Nippon Dental University Hospita

【緒言】 非定型歯痛は他覚的異常所見に乏しく、精神的な異常も認められないにもかかわらず、痛みを訴える疾患である。非定型歯痛は随伴症状として、口腔内のネバネバ等の異常感や咬合異常感を認めることもある。今回我々は咬合異常感を伴う非定型歯痛に対してプレガバリンが奏効した症例を体験したので報告する。

【症例】 46歳、女性。上顎前歯部の咬合痛を主訴に当院総合診療科受診。「前歯が当たると痛い」、「奥歯で噛もうとするとすべってしまいものが噛めない」、「食事をミキサーにかけないと飲み込めない」、「歯の辺りにぴりっと電気が走る感じがする」との訴えがあり、現病歴、NSAIDs 抵抗性、痛みの性状等から咬合異常感を伴う非定型歯痛と診断した。了解が得られたためプレガバリンを処方したところ疼痛に改善が認められた。また、疼痛の緩和と連動して咬合異常感、咀嚼障害も改善し通常食が食べられるようになった。

【考察】 本症例では咬合異常感を伴う非定型歯痛に対して、プレガバリンを処方することで「前歯が当たると痛い」という訴えに効果が認められた。その後咀嚼時の疼痛が無くなり、患者は食べ物を噛むことへの抵抗が無くなっていき、徐々に通常食を咀嚼することができ、「奥歯で噛もうとするとすべってしまいものが噛めない」という咬合異常感も改善された。咬合異常感は抗精神病薬で奏功することが多いが、本症例ではプレガバリン単剤で効果が認められたため、咬合異常感を伴う疼痛にプレガバリンの処方を検討する価値があると考えられた。

キーワード：非定型歯痛、咬合異常感、プレガバリン

第30回日本歯科心身医学会総会・学術大会

大会長：豊福 明

事務局：東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 歯科心身医学分野

実行委員長：吉川 達也

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

TEL：03-5803-5909 (医局) / 5898 (外来)

FAX：03-5803-5898

E-mail：sikasinsin30@gmail.com

出版： 株式会社セカンド
<http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル 1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

第30回日本歯科心身医学会総会・学術大会事務局

**東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
歯科心身医学分野**

実行委員長 吉川 達也

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

TEL: 03-5803-5898/5909 FAX: 03-5803-5898

E-mail: sikasinsin30@gmail.com